

## 【調査サマリー】

デジタル化による生産性向上の遅れは「施工・専門工事 (39.8%)」が最多、昨年より 4 ポイント上昇、深刻さ増す

調査実施概要 (調査元: BuildApp News 編集部)	
調査期間: 2024 年 1 月 15 日~1 月 22 日	回答数: 1,000 人
調査対象者: 全国の建設業界従事者 (20~70 代)	調査方法: インターネット調査(ゼネラルリサーチ株式会社)

## 【目次】

1. 「デジタル化未対応による仕事の不安」	2
1-1. 年代別	2
1-2. 事業規模別	2
1-3. 従事業務別	3
2. 「デジタル化による生産性向上、業務効率化」(複数回答)	3
2-1. 前年度比(デジタル化による生産性向上、業務効率化が進んでいるプロセスと遅れているプロセス)	3
2-2. 業種別	4
2-3. 従事業務別(「施工・専門工事」がデジタル化による生産性向上、業務効率化が遅れているプロセス)	5
3. デジタル化による「生産性向上、業務効率化が進まない理由」(複数回答)	6
3-1. デジタル化が難しいと思う業務(複数回答)	6
4. 人手不足への対策(複数回答)	7
4-1. 人手不足の解消が期待できるデジタル技術(複数回答)	8
4-2. 人手不足の解消が期待できるデジタル技術に「BIM(3D モデルで企画・設計・施工・維持管理に関する情報を一元管理)」を選択した理由	8
5. 使いこなすことができればよいと思うデジタル技術	9
5-1. 実際に BIM を活用している方(n:376)の活用シーン	10
5-2. BIM 活用に期待する理由	10

## 【結果詳細】

- 【デジタル化未対応による仕事の不安】全体の 6 割強が「デジタル化に対応できないと将来仕事が減るのでは、という不安」を抱えている。年代別では、20 代・30 代の若手、70 代で 7 割近くに上り、最も割合が少なかったのは 40 代であった。40 代は、建設業への従事年数も一定あり建設業に多いアナログ手法と、デジタルデバイスの両方に対応できている方が多いのではないかと。
- 【デジタル化による生産性向上、業務効率化が遅れているプロセス】1 位「施工・専門工事 (39.8%)」が 2023 年調査結果よりも 4 ポイント上昇、2 位「施工管理 (24.9%)」も同様に 1.8 ポイント上昇していた。裏返せば、「施工・専門工事」、「施工管理」プロセスのデジタル化が生産性向上、業務効率化の鍵と言えるのではないかと。
- 【デジタル化による生産性向上、業務効率化が進まない理由】「デジタル化できない作業が多い (55.8%)」、「現場での変更が多くデータ更新が面倒 (27.6%)」、「導入から運用までの煩雑さ (22.6%)」が、前年同様に上位に挙がっている。デジタル化が難しい業務には、1 位「施工トラブル (56.7%)」だけが前年の調査結果よりも 4.3 ポイント上昇していた。
- 【人手不足の解消に期待できるデジタル技術(複数回答)】1 位に「BIM(3D モデルで企画・設計・施工・維持管理に関する情報を一元管理) (45.0%)」があがり、その理由には、BIM の情報管理性、分かりやすさから効率化や生産性向上を期待する声が多いことに注目したい。
- 【使いこなすことができればよいと思うデジタル技術】1 位「BIM(3D モデルで企画・設計・施工・維持管理に関する情報を一元管理) (28.1%)」が、2023 年度調査結果よりも 3.5 ポイント上昇していた。

## 1. 「デジタル化未対応による仕事の不安」

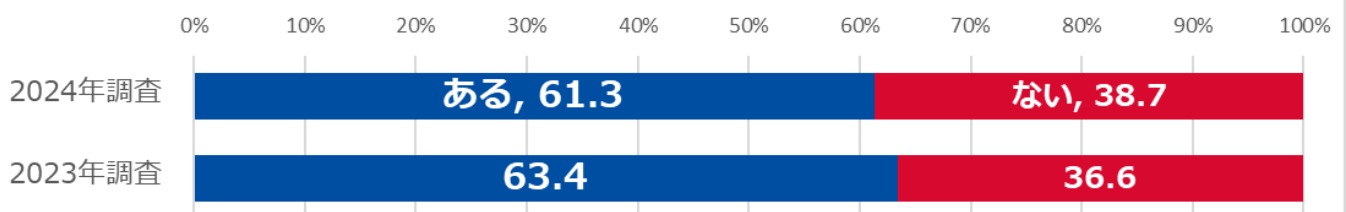
「デジタル化に対応できないと将来仕事が減るのでは、という不安」がある方は全体の 61.3%だった。2023 年調査とほぼ変わらない結果となったことから、依然として、今後はデジタル対応が必要であることは、半数以上の建設業界従事者において認識されていると推測できる。

### 1-1. 年代別

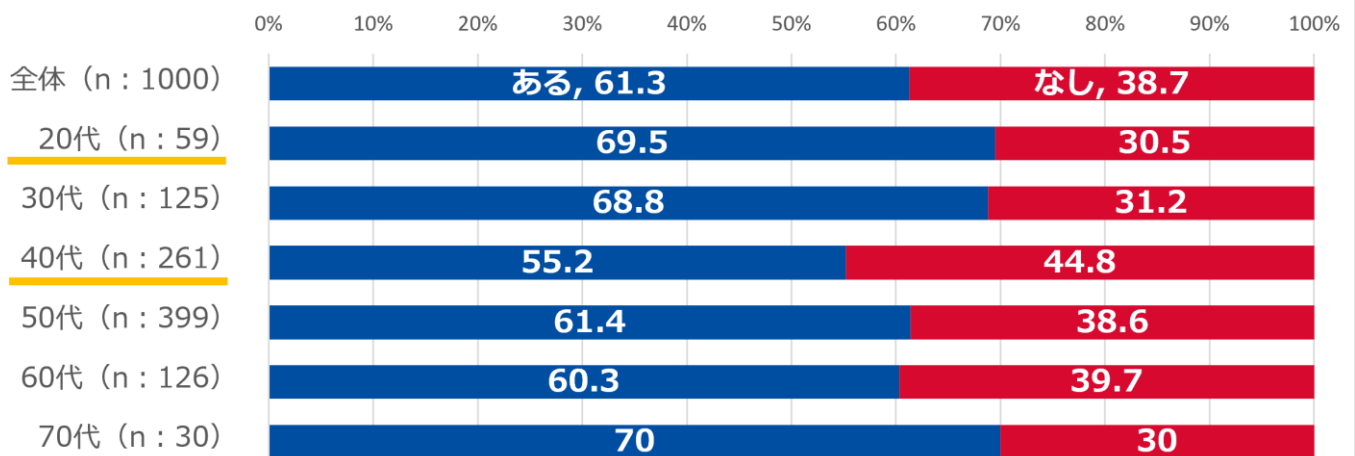
年代別に「デジタル化に対応できないと将来仕事が減るのでは、という不安」がある方の割合をみると、40代が最も数値が小さく、**未来を担う若い世代（20代・30代）とベテラン世代で多い傾向**が見て取れた（40代を境に、若くなるほど、ベテランになるほどその数値が大きいく）。

40代は、建設業への従事年数も一定あり建設業に多いアナログ手法と、デジタルデバイスの両方に対応できている方が多いのではないかと推測される。

【前年度比】 デジタル化未対応による仕事の不安 n:1000、単位：%



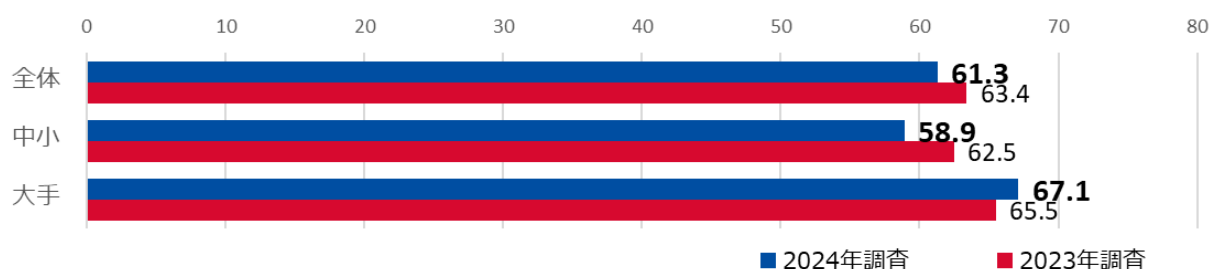
【年代別】 デジタル化未対応による仕事の不安 単位：%



### 1-2. 事業規模別

事業規模にみると、中小企業では「デジタル化に対応できないと将来仕事が減るのでは、という不安」がある方の割合は前年の 62.5%から 58.9%に減少、大手企業ではその逆で前年の 65.5%から 67.1%に微増していた。

【事業規模別】 デジタル化未対応による仕事の不安 単位：%

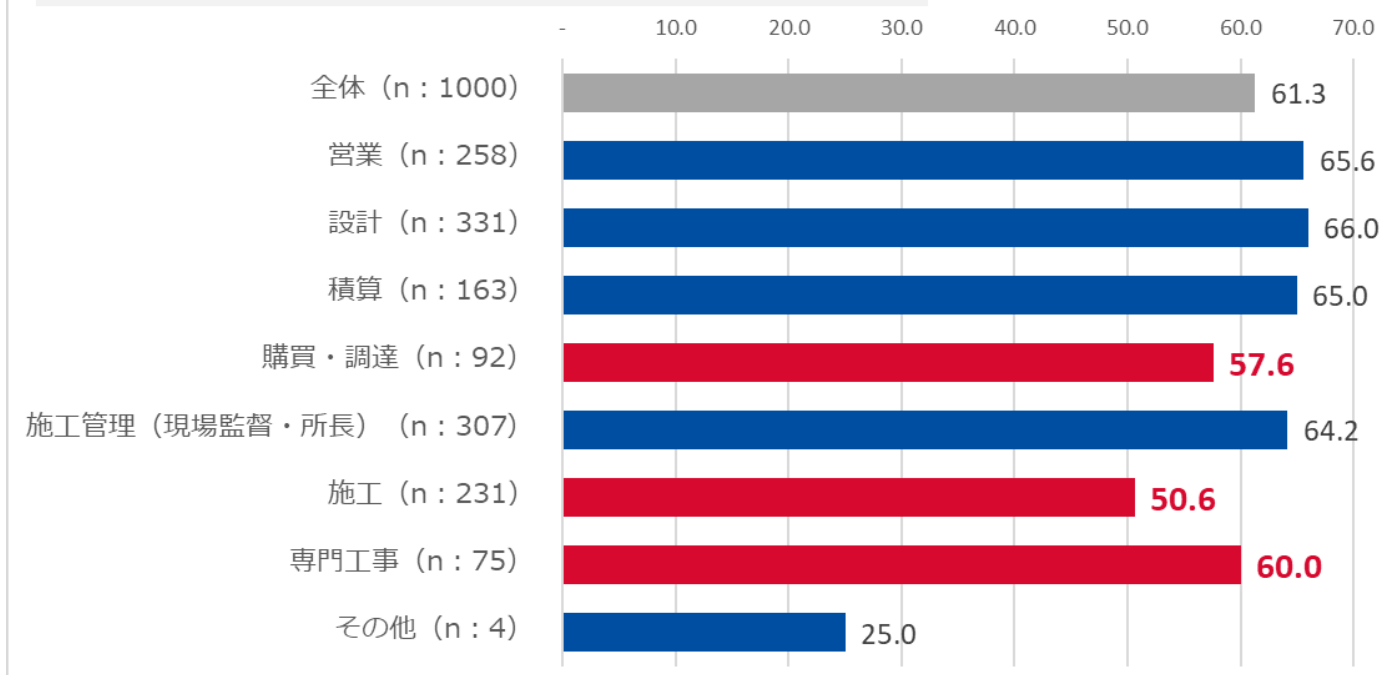


### 1-3. 従事業務別

従事業務別に「デジタル化に対応できないと将来仕事が減るのでは、という不安」がある方の割合をみると、購買・調達 (n: 92)、施工 (n: 231)、専門工事 (n: 75) のそれぞれに従事する方において全体よりも数値が低い結果となった。

2. 【デジタル化による生産性向上、業務効率化】が遅れている業務プロセスの 1 位に「施工・専門工事」が上がっていることから (詳細は次頁を参照)、施工 (n: 231)、専門工事 (n: 75) に従事する方は自身がかかわるプロセスのデジタル化が遅れていることから「デジタル化への対応」について他の業務従事者よりも不安感が少ないのではないかと推測できる。

【従事業務別】 デジタル化未対応への不安がある方の割合 単位: %



## 2. 「デジタル化による生産性向上、業務効率化」(複数回答)

業務プロセスごとに、「デジタル化による生産性向上、業務効率化」が進んでいるものと、遅れているものを尋ねたところ、「デジタル化による生産性向上、業務効率化が遅れていると思う業務プロセス」の 1 位「**施工・専門工事**」は、前回調査結果の 35.8% から 4 ポイント上昇しており、深刻さが増していると言える。

「デジタル化による生産性向上、業務効率化が遅れていると思う業務プロセス」の 1 位「**施工・専門工事**」、2 位「**施工管理**」が、生産性向上、業務効率化の鍵になりうると考えられる。(施工管理については、デジタル化による生産性向上と業務効率化が「進んでいる」でも 3 位に入っていることから「遅れている」「進んでいる」は二極化している可能性も)

	デジタル化による生産性向上、業務効率化 ※複数回答	
	進んでいると思う業務プロセス	遅れていると思う業務プロセス
1 位	設計関連業務(設計・監理など) (40.2%)	施工・専門工事 (39.8%)
2 位	見積・積算業務 (38.2%)	施工管理 (24.9%)
3 位	施工管理 (34.0%)	営業 (22.5%)

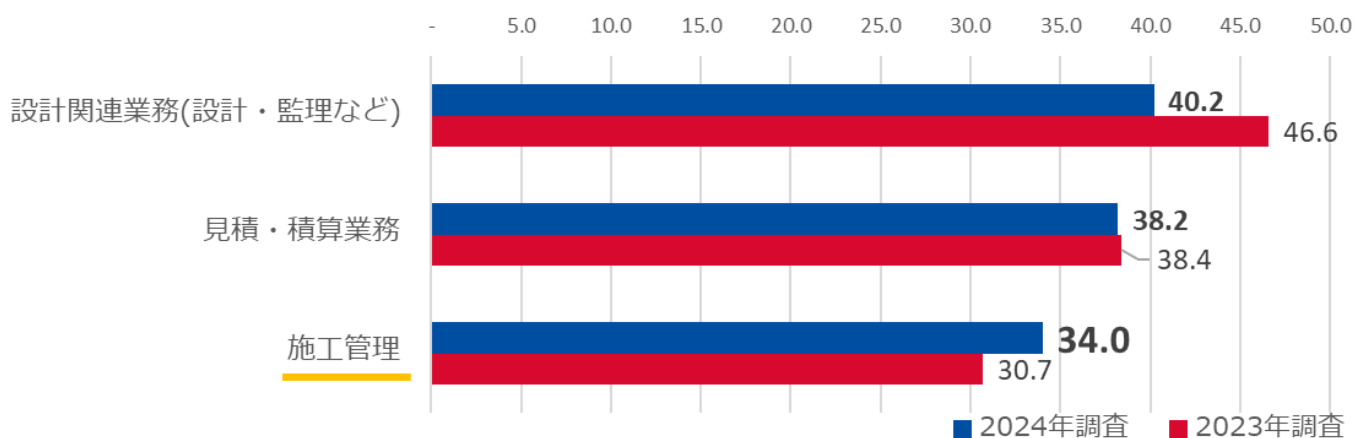
### 2-1. 前年度比 (デジタル化による生産性向上、業務効率化が進んでいるプロセスと遅れているプロセス)

それぞれの結果を前年度の結果と比較したところ、「デジタル化による生産性向上、業務効率化が進んでいるプロセス」の順位は同じだったが、3 位「**施工管理**」の伸び率が大きい。

一方で、「デジタル化による生産性向上、業務効率化が遅れているプロセス」については、1 位「**施工・専門工事**」、2 位「**施工管理**」のいずれも数値が高まっていたことも踏まえると、建設現場での施工関連プロセスの「デジタル化による生産性向上、業務効率化」は進捗状況が二極化しており、かつその二極化が前年度よりも進行しているのではないかと推測される。

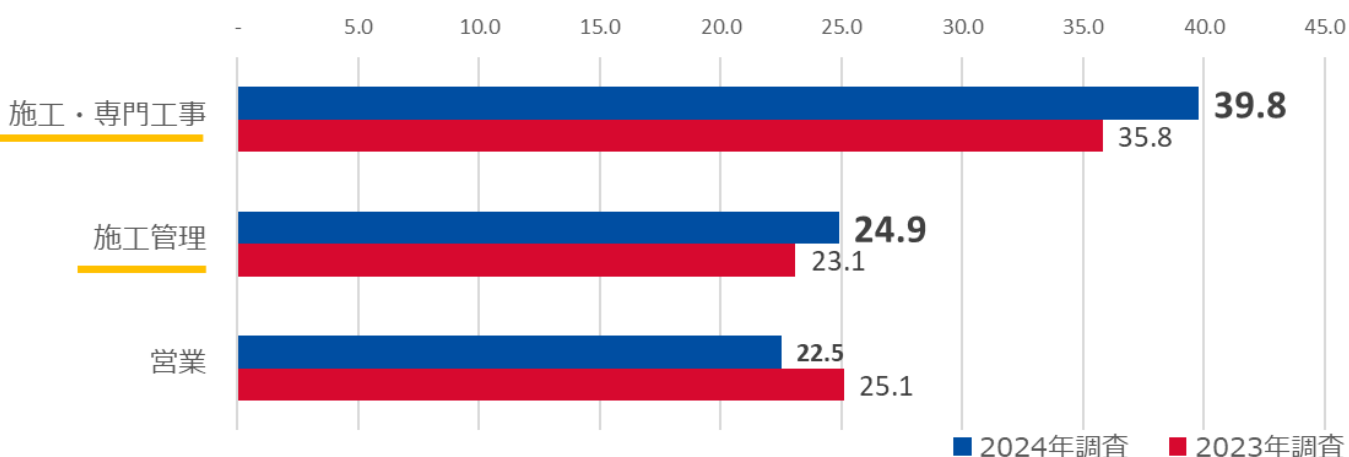
【前年度比】デジタル化による生産性向上、業務効率化が進んでいるプロセス

n:1000、単位：%、複数回答



【前年度比】デジタル化による生産性向上、業務効率化が遅れているプロセス

n:1000、単位：%、複数回答

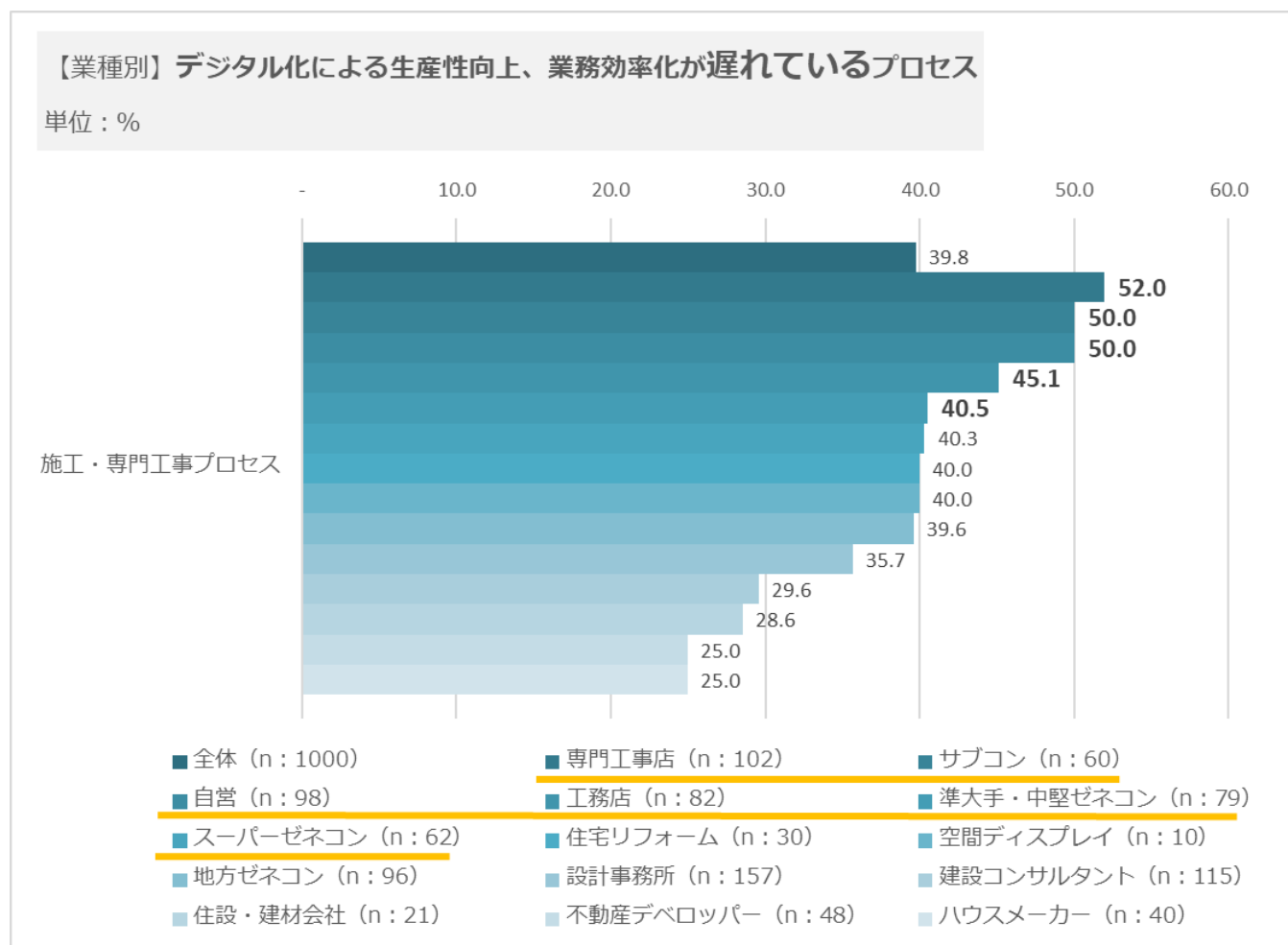


2-2. 業種別

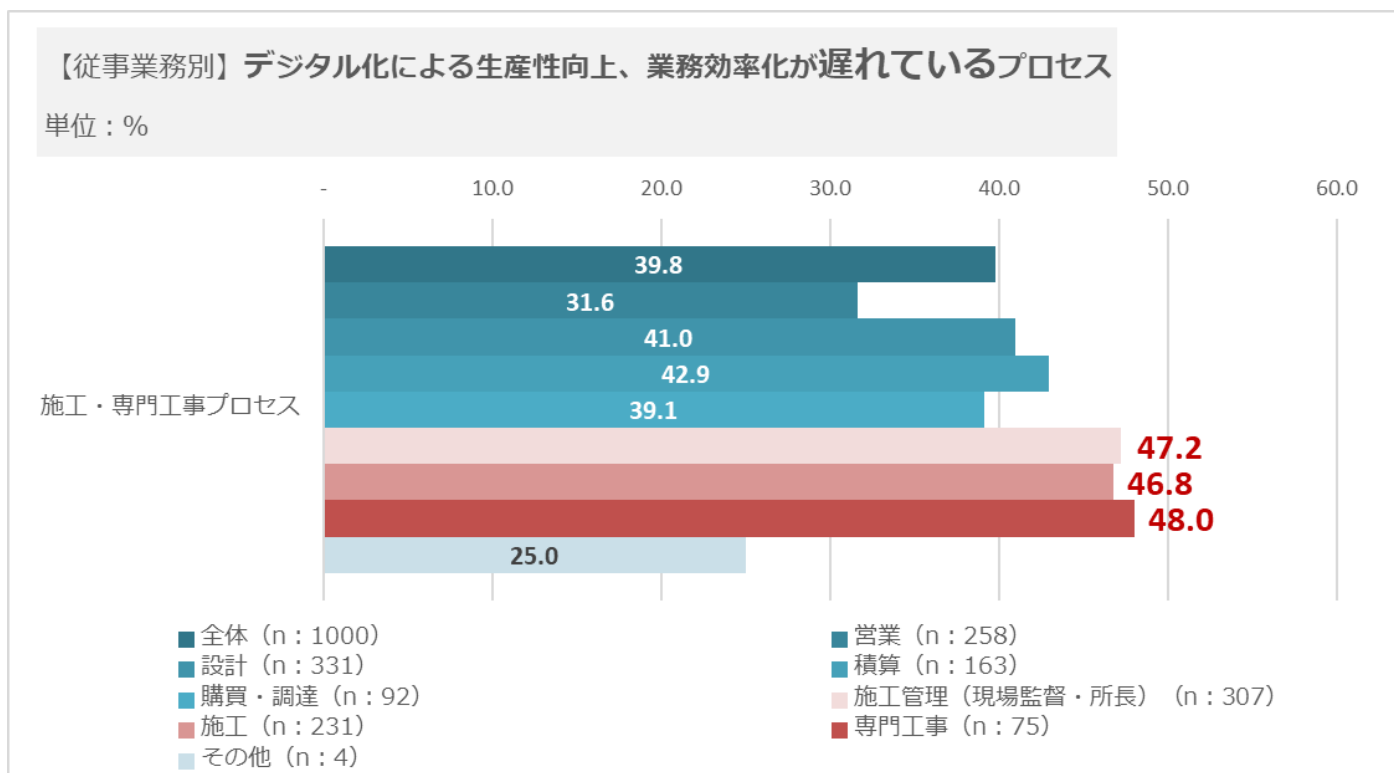
業種別に、「施工・専門工事」プロセスのデジタル化が遅れていると感じている方の割合の多さを見たところ、結果は次の通りで、「施工・専門工事」プロセスに関わる業種の企業ほど「デジタル化の遅れ」を強く感じていることが分かる。前年度との比較においては、次表の通り、大幅に順位が入れ替わっていることも注目したい。

【業種別】「施工・専門工事」のデジタル化による生産性向上、業務効率化が遅れている ※複数回答		
	2024年調査	2023年調査
1位	専門工事店 (n: 102) (52.0%)	空間ディスプレイ (50.0%)
2位	サブコン (n: 60) (50.0%)	工務店 (48.8%)
3位	自営 (n: 98) (50.0%)	自営 (例: 大工) (45.0%)
4位	工務店 (n: 82) (45.1%)	専門工事店 (42.1%)
5位	準大手・中堅ゼネコン (n: 79) (40.5%)	サブコン (41.4%)
6位	スーパーゼネコン (n: 62) (40.3%)	地方ゼネコン (40.9%)

※空間ディスプレイとは、店舗や展示会ブース、オフィスなど、幅広い範囲で内装や展示のデザインを行う企業のこと



2-3. 従事業務別（「施工・専門工事」がデジタル化による生産性向上、業務効率化が遅れているプロセス）  
 従事業務別に、「施工・専門工事」プロセスに注目して、「デジタル化による生産性向上、業務効率化が遅れている」と感じている割合を見たところ、建設現場での施工関連業務の従事者（施工管理、施工、専門工事）ではその数値が約5割近くに上った。



### 3. デジタル化による「生産性向上、業務効率化が進まない理由」(複数回答)

上位 6 位は次の通りで、前年の調査結果とほぼ変わらない結果であったが、1 位「デジタル化できない作業が多い」の割合は微増、6 位「従来のやり方が一番早いと思っているから」は微減している。

	デジタル化による「生産性向上、業務効率化が進まない理由」 ※複数回答	
	2024 年調査	2023 年調査
1 位	デジタル化できない作業が多い (55.8%)	デジタル化できない作業が多い (52.8%)
2 位	現場での変更が多くデータ更新が面倒 (27.6%)	現場での変更が多くデータ更新が面倒 (29.9%)
3 位	導入から運用までの煩雑さ (22.6%)	導入から運用までの煩雑さ (23.8%)
4 位	予算が確保できない (21.3%)	予算が確保できない (22.1%)
5 位	ツールの使い方を覚えるのが面倒 (20.4%)	従来のやり方が一番早いと思っているから (21.7%)
6 位	従来のやり方が一番早いと思っているから (19.5%)	ツールの使い方を覚えるのが面倒 (20.1%)

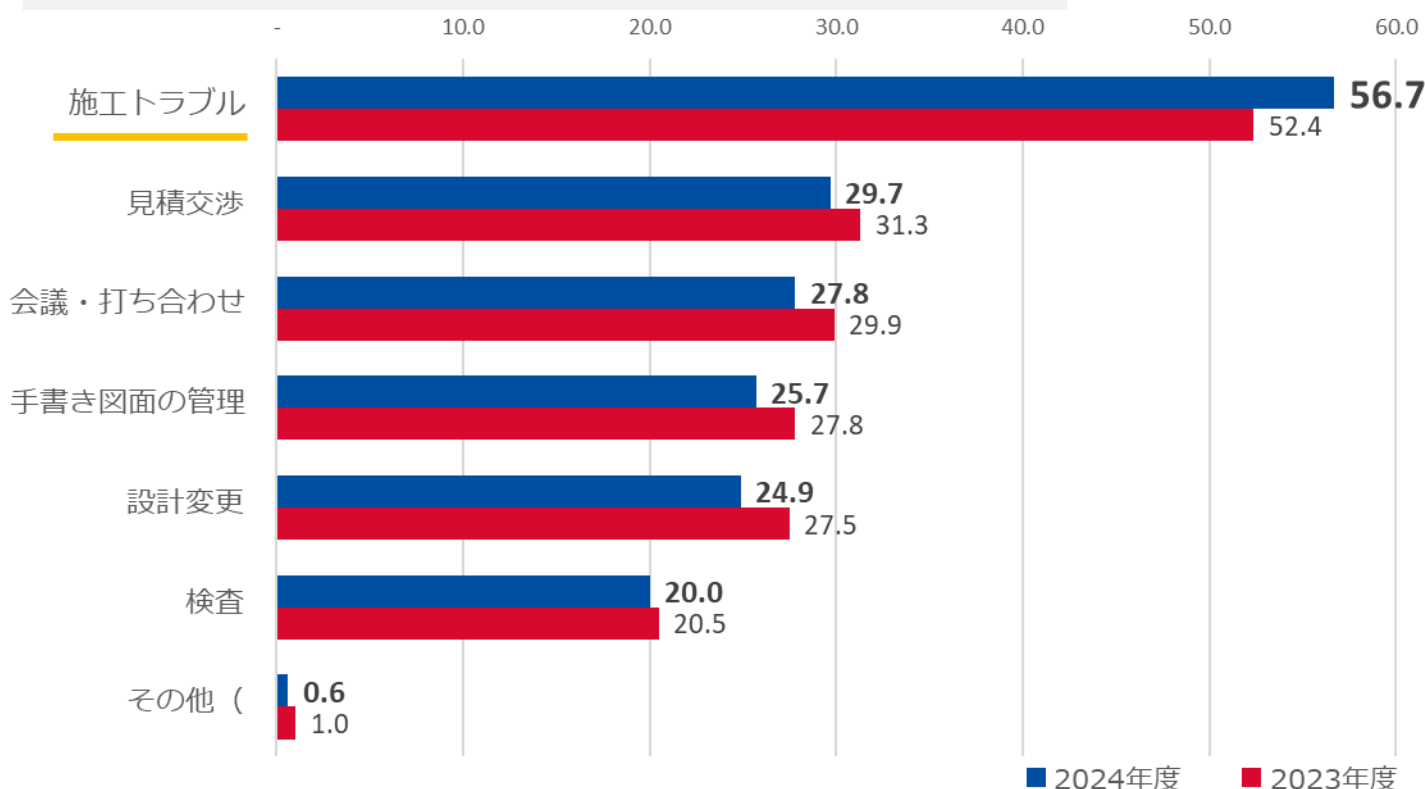
#### 3-1. デジタル化が難しいと思う業務 (複数回答)

デジタル化による「生産性向上、業務効率化が進まない理由」の 1 位に上がった「デジタル化できない作業が多い」に関連して、「デジタル化が難しいと思う業務」を尋ねたところ (複数回答)、順位は昨年同様の結果であった。

しかし、1 位「施工トラブル (56.7%)」だけが前年の調査結果よりもその割合が増えていたことに注目したい。

	デジタル化が難しいと思う業務 ※複数回答	
	2024 年調査	2023 年調査
1 位	施工トラブル (56.7%)	施工トラブル (52.4%)
2 位	見積交渉 (29.7%)	見積交渉 (31.3%)
3 位	会議・打ち合わせ (27.8%)	会議・打ち合わせ (29.9%)

【前年度比】デジタル化が難しいと思う業務 n:1000、単位：%、複数回答

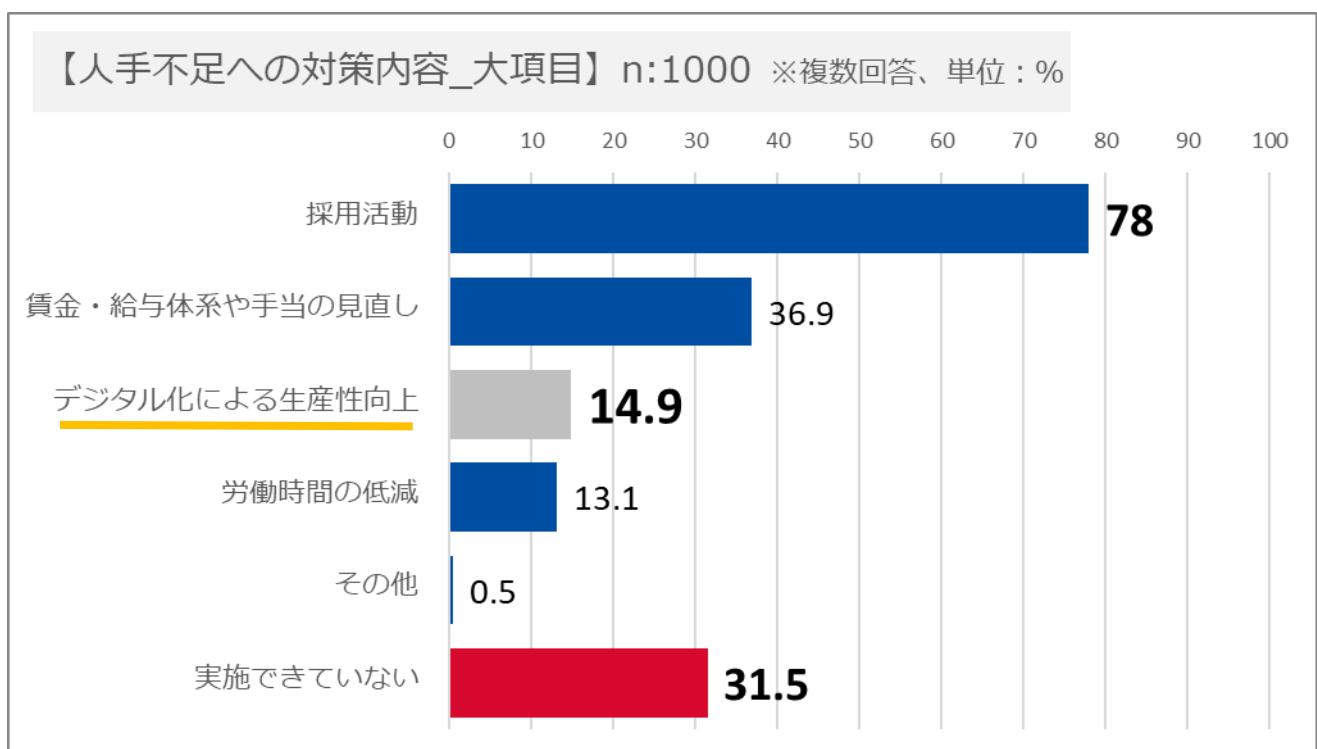
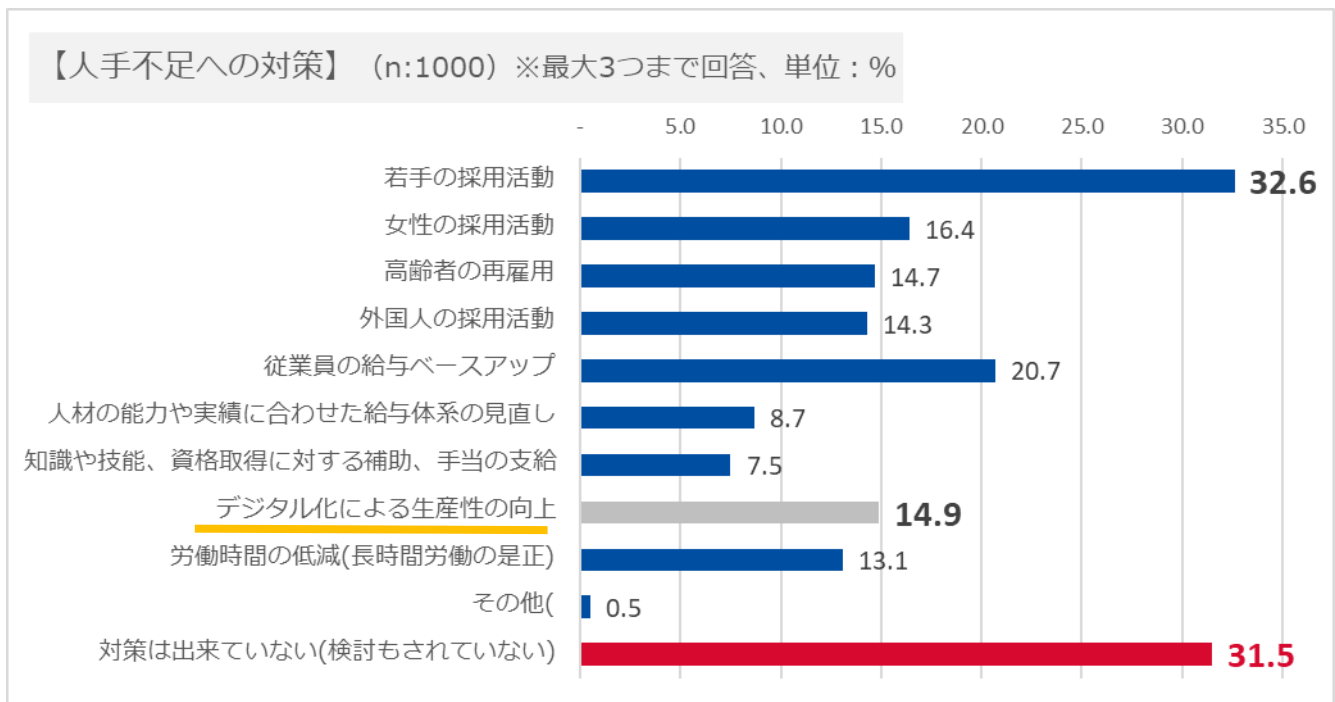


#### 4. 人手不足への対策（複数回答）

「建設 2024 年問題に限らず、人手不足問題に対して所属している会社はどのような対策を講じていますか?(最大 3 つまで回答可)」と尋ねたところ、1 位「若手の採用 (32.6%)」、2 位「対策は出来ていない (検討もされていない) (31.5%)」、3 位「従業員の給与ベースアップ (20.7%)」となった。

結果を総じてみると、「人手不足対策」は「採用活動 (78%)」が最多であり、「デジタル化 (ICT 導入・DX 化の導入推進)による生産性の向上 (14.9%)」は進んでいないことが分かる。

一方で、今後の労働人口不足が確実と言われている中で、建設産業では、従来同様の「人」に頼りすぎる対策よりも、「デジタル化 (ICT 導入・DX 化の導入推進)による生産性の向上」への移行が求められるのではないかと。

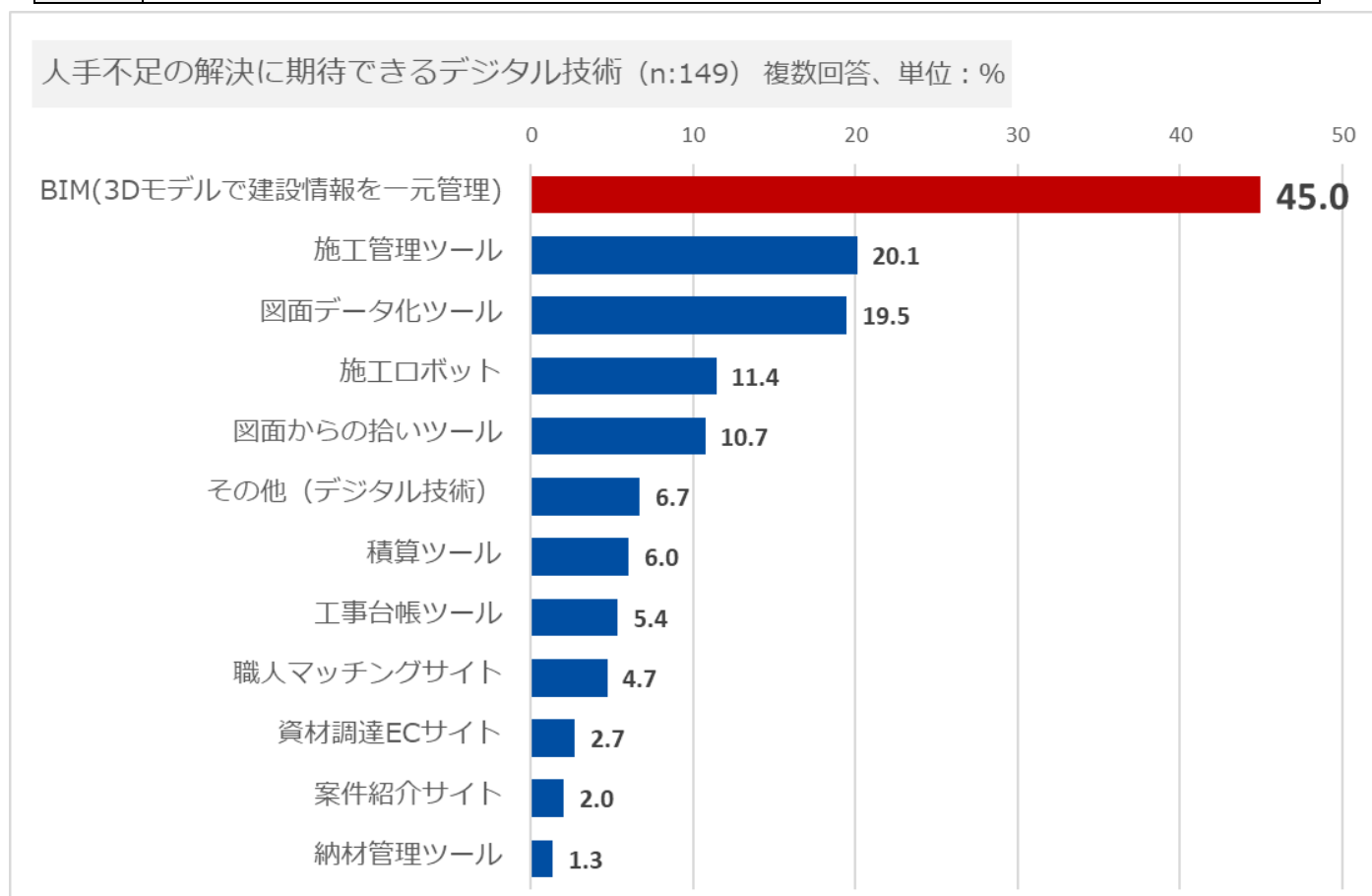


#### 4-1. 人手不足の解消が期待できるデジタル技術 (複数回答)

「人手不足問題に対する会社の対策」の設問で、「デジタル化 (ICT 導入・DX 化の導入推進) による生産性の向上」を選んだ方 (n:149) に、「人手不足の解消が期待できるデジタル技術 (機器・ツール)」を尋ねたところ、上位 3 位は次表の通りとなった。

官民で進める「BIM(3D モデルで企画・設計・施工・維持管理に関する情報を一元管理)」が群を抜いていたことに注目したい。

人手不足の解消が期待できるデジタル技術 (機器・ツール) ※複数回答、n:149	
1 位	BIM(3D モデルで企画・設計・施工・維持管理に関する情報を一元管理) (45.0%)
2 位	施工管理ツール (20.1%)
3 位	図面データ化ツール (19.5%)



#### 4-2. 人手不足の解消が期待できるデジタル技術に「BIM(3D モデルで企画・設計・施工・維持管理に関する情報を一元管理)」を選択した理由

4-2. 人手不足の解消が期待できるデジタル技術に「BIM(3D モデルで企画・設計・施工・維持管理に関する情報を一元管理)」を選択した理由を尋ねたところ、以下の通り分類できた。BIM の情報管理性、分かりやすさから効率化や生産性向上を期待する声が多いことに注目したい。

##### ●情報管理性

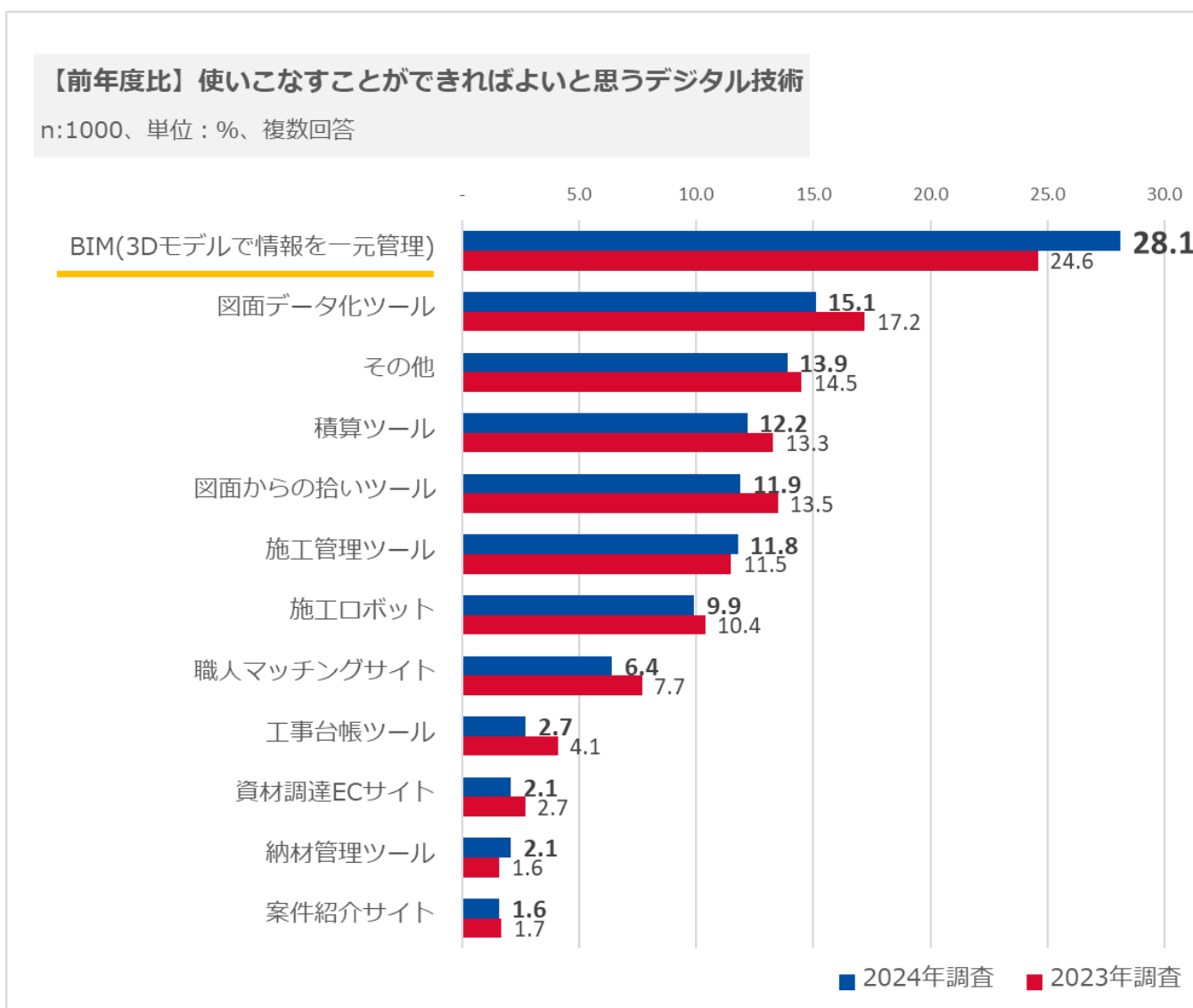
- ・ 建築主と設計者と施工者がビジュアル化で共通認識が図れ、早く事業が進められる
- ・ 早期に施工上の問題点を抽出、解決を図ることができる
- ・ 今まであちこちにあった情報がまとめられる
- ・ 情報共有の時間の軽減
- ・ 個々の管理では矛盾が起こりやすいから
- ・ 齟齬をなくす、情報齟齬 (手戻り) 防止
- ・ データの共有
- ・ 管理が楽



<p>●<b>分かりやすさ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理解がしやすい</li> <li>・誰でもわかる</li> <li>・立体的で分かりやすい</li> <li>・直感で仕事ができるようになる</li> </ul>
<p>●<b>図面</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設計から施工まで一貫した図面</li> <li>・施工図作成の効率化</li> <li>・図面展開が早い</li> <li>・図面作成の時短になる</li> </ul>
<p>●<b>効率化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現場へ赴く頻度を減らせる</li> <li>・作業や業務の効率化</li> </ul>
<p>●<b>生産性向上</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミスロスが減り、結果生産性が上がる</li> </ul>

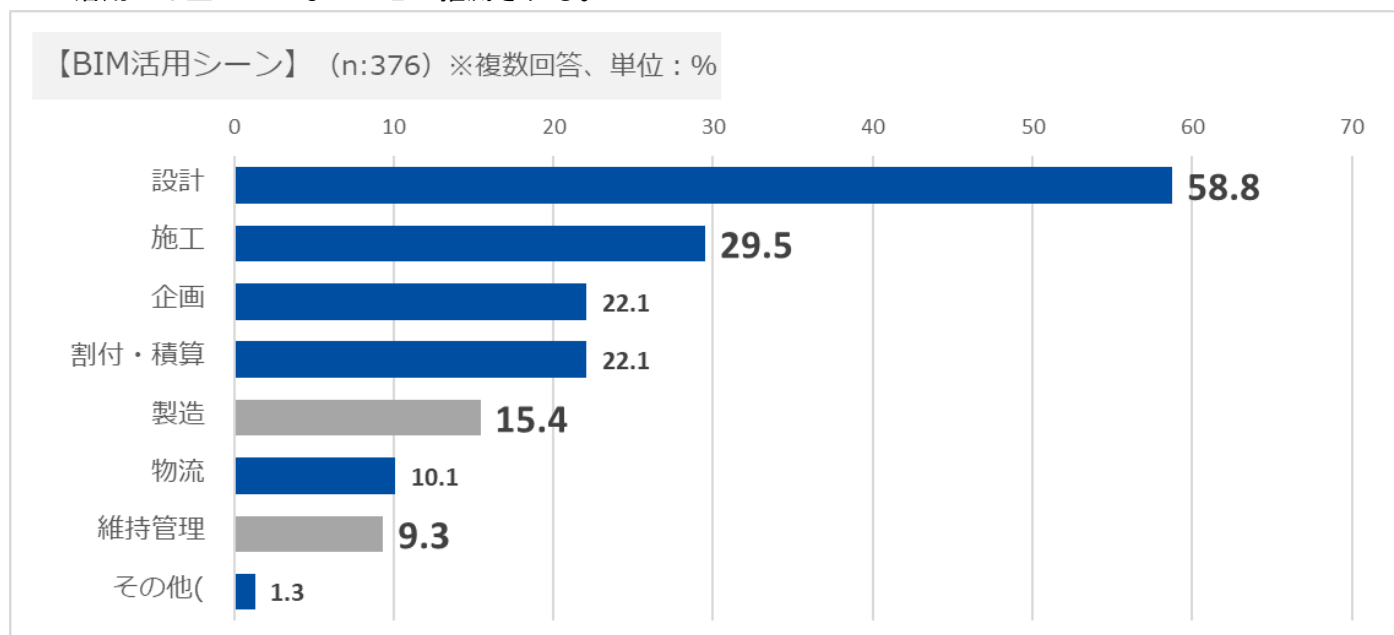
## 5. 使いこなすことができればよいと思うデジタル技術

1 位「BIM(3Dモデルで企画・設計・施工・維持管理に関する情報を一元管理) (28.1%)」が、2023 年度調査結果よりも 3.5 ポイント上昇していたことに注目したい。



### 5-1. 実際に BIM を活用している方 (n:376) の活用シーン

実際に BIM を活用している方 (n:376) の活用シーンは、設計 (58.8%)、施工 (29.5%) が上位であり、製造 (15.4%) や維持管理 (9.3%) はその割合が小さかったことから、建設に関わる全プロセスでの BIM 活用には至っていないことが推測される。



### 5-2. BIM 活用に期待する理由

実際に BIM を活用している方 (n:376) に BIM 活用に期待する理由を尋ねたところ、「どこを切った図面でも瞬時に展開できる (44.9%)」、「設計・構造・設備を総合的に判断できる (42.8%)」、「発注者から技能工まで完成イメージがわかりやすい (41.2%)」が上位となったことから、BIM による 3D モデルでの分かりやすさが活用メリットと感じていることが推測できる。

一方で、「ロボット、ドローン、VR との連携がしやすくなる (5.6%)」は圏外であったことから、建設 RX コンソーシアムを中心にゼネコン各社の連携による進むロボティクスの開発・実装と、BIM との関連性(連携による可能性の拡大)の認知は進んでいないことが示唆される。

	BIM 活用者の、BIM 活用に期待する理由 (n:376) ※複数回答
1 位	どこを切った図面でも瞬時に実施できる (44.9%)
2 位	設計・構造・設備を総合的に判断できる (42.8%)
3 位	発注者から技能工まで完成イメージがわかりやすい (41.2%)
4 位	設計段階での手直しが一度で済む (38.8%)
5 位	人工の省力化ができて人手不足が解消される (19.9%)

以上

### 【本件に関する報道関係者からの問合せ先】

野原グループ株式会社  
 マーケティング部 ブランドコミュニケーション課  
 担当：森田・齋藤  
 E-Mail：[nhrpreso@nohara-inc.co.jp](mailto:nhrpreso@nohara-inc.co.jp)